

(1) 水 稲

| 作物 | 農 薬 名 | 特 性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|-------------------|--|--|-----------------------------------|------------------|---|---------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| ア 畦畔雑草処理 | グラスショート液剤 ビスピリバックナトリウム塩 3.0% ※抑草剤 | 非ホルモン型の吸収移行性抑草剤である。雑草の草丈を抑えることによって草刈り回数を減少させるものである。根まで枯らさないで畦畔を崩さない。 | 一年生雑草及び多年生雑草 (雑草の草丈抑制による刈取り軽減) | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 雑草生育初期 (草丈10cm)及び草刈り後10～20日の雑草再生期(ただし収穫前日まで)／3 | 同左 |
| | ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5% | 吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草及び多年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 収穫7日前まで／2 | 同左 |
| | ダイロンゾル DCMU 50.0% | 非ホルモン系の吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草 | 雑草茎葉散布又は全面土壌散布 | 雑草発生前～生育初期／1 | 同左 |
| | パスタ液剤 グルホシネート 18.5% | 吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草及び多年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 収穫7日前まで(雑草生育期:草丈30cm以下)／2 | 同左 |
| | プリグロックスL ジクワット 7.0% バラコート 5.0% | 非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。 | 一年生雑草 多年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 雑草生育期／5 | 同左 |
| イ 水田刈跡・耕起前雑草処理 | 草枯らしMIC サンフーロン液剤 グリホサート イソプロピルアミン塩 41.0% | 吸収移行型の非選択除草剤で、ほとんどすべての一年生、越年性、多年生草本及び木本に作用する。 | 一年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 耕起20～10日前(雑草生育期)／1 | 雑草生育期／1 |
| | ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5% | 吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草(水田作物) | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 耕起前／1 | 同左 |
| | パスタ液剤 グルホシネート 18.5% | 吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 耕起15日前まで(雑草生育期)／1 | 雑草生育期／1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|--------------|---|---|
| 300～500ml | — | (通常散布) 10 a 当たり 50～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10 a 当たり 25リットルの水に溶き、専用 ノズルで散布する。 | 1. ビスピリバクナトリウム塩を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 低温下では効果の発現が遅れることがある。 6. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 500～1000ml | — | 10 a 当たり100～150リットル の水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. 畦畔処理の場合、ゲルシネット及びゲルシネットPを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 散布直後(1時間程度)の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 200～250ml | — | 10 a 当たり100リットルの水 に溶き、噴霧機等で散 布する。 | 1. DCMUを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. 茎葉処理除草剤(ザクサ液剤)と混用することにより、効果向上が認められるので、茎葉処理除草剤との混用で使用する。 3. 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 4. 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に被害が生ずる恐れがあるので注意する。 |
| 500～1000ml | — | 10 a 当たり100～150リットル の水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. ゲルシネット及びゲルシネットPを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合には所定範囲の多めの薬量で使用する。多年生雑草では地下茎まで枯死せず再生することがある。 5. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後2～5日で効果が発現する。 7. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 600～1000ml | — | 10 a 当たり100～150リットル の水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. 畦畔処理の場合、ジクワット、パラトを含む農薬の総使用回数はそれぞれ5回以内とする。 2. 散布薬量、散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が乾いてから十分付着するように散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 |
| 1000～2000ml | — | | 5. 展着剤の加用の必要はないが、加用する場合には非イオン系展着剤を使用する。 (農業用展着剤の項を参照。) |
| 250～500ml | — | 10 a 当たり50～100リットル (草枯らしMICは100 リットル)の水に溶き、噴霧 機で散布する。 | 1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が大きくなると効果が劣るので、早めに散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 散布後10日間は耕起、刈払いしない。 6. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 7. 散布後2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 8. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 300～500ml | — | 10 a 当たり100～150リットル の水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. ゲルシネット及びゲルシネットPを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 散布直後(1時間程度)の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 300～500ml | — | 10 a 当たり100～150リットル の水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. ゲルシネット及びゲルシネットPを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合には所定範囲の多めの薬量で使用する。多年生雑草では地下茎まで枯死せず再生することがある。 5. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後2～5日で効果が発現する。 7. 展着剤の加用は必要ない。 |

水稲

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|-----------------------|---|-------------------------------------|--|------------------|----------------------------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| イ 水田刈跡・耕起前雑草処理 | プリグロックスL ジクワット 7.0% パラコート 5.0% | 非ホルモン型の非選択接触型の除草剤である。 | 一年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 秋期稲刈取後または春期水田耕起1か月前～直前まで／1 | 同左 |
| | ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0% | 吸収移行型の非選択性除草剤である。 | 一年生雑草及び多年生雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 耕起前(雑草生育期)／1 | 同左 |
| | | | 多年生雑草(水田刈跡) | | 雑草生育期／1 | 同左 |
| 一年生雑草(水田刈跡) | | | | | | |
| ウ 移植栽培 (ア)初期処理剤 | ソルネット1キロ粒剤 プレチラクロール 4.0% | 非ホルモン型の吸収移行型除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ | 土壌処理 (灌水散布) | 移植後2～3日／1 | 植代後～移植前7日、移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ1葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | パデホープ1キロ粒剤 ダイムロン 15.0% プレチラクロール 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ | 土壌処理 (灌水散布) | 移植後2～3日／1 | 植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ユニハーブフロアブル プレチラクロール 5.0% ベンゾフェナップ 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ) | 土壌処理 (原液灌水散布) | 移植直後～3日／1 | 植代時～移植7日前、移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ1葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| (イ)初期一発処理 | アワードフロアブル イマソスルフロン 1.7% ダイムロン 27.5% ビリブチカルブ 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (原液灌水散布) | 移植後3～5日／1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ1.5葉期まで(ただし移植後30日まで)／1 |
| | カイリキZジャンボ イブフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 8.3% プロピリスルフロン 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ | 土壌処理 (灌水散布) | 移植後3～11日／1 | 移植3日～ノビエ3葉期まで(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ガンガンジャンボ ビリミスルフェン 2.0% フェノキサスルホン 8.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ)、セリ、藻類、(コウキヤガラ) | 土壌処理 (灌水散布) | 移植後3～9日／1 | 移植後3日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|---|---|--|
| 800～1000ml | — | 10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ジクット、パラコートを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内とする。 2. 散布薬量・散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が乾いてから十分付着するように散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 展着剤の加用の必要はないが、加用する場合には非イオン系展着剤を使用する。(農業用展着剤の項を参照。) |
| 200～500ml | — | (通常散布) 10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は1回(水田刈跡と耕起前は合わせて1回)とする。 2. 散布薬量・散布水量は、雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. ススキ、セイタカアワダチソウ、マルバツユクサに使用する場合は、所定範囲の多めの薬量を使用する。 4. 雑草が大きくなると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 多年生雑草に対しては、複数年継続防除が必要。 6. 付近の作物にかからないようにする。 7. 散布後1時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見きわめてから散布する。 8. 散布後2～7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 9. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 500～1000ml | | (少量散布) 10 a 当たり25～50リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。 | |
| 200～500ml | | | |
| 1 kg | 壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. プレチアロールを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. ビエ1葉期、ホライ発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日は水深3～5 cmを保つ。 4. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ダイムロン、プレチアロールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2. ビエ1葉期、ホライ・ミズガヤツリ発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日は水深3～5 cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. プレチアロール、ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. 散布後4日間は水深3～5 cmを保つ。 3. 田植直後からノビエ1葉期までに使用する。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 早期： (減水深1 cm /日以下) 普通期： (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イゾスルフロ、ダイムロン、ピリパチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2. ビエ1.5葉期、ホライ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (300g) | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イプフェカルバズン、テアルトリオン、プロピリスルフロを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビエ・ホライ・ウリカは3葉期、ミズガヤツリは草丈15 cmまで、モダカ・クダグワイ・コキヤガラは発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (250g) | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ビリスルフェン、フェキサメトニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回以内とする。 2. ビエ2.5葉期、ホライ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルシ発生期、セリ再生前～始、藻類発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期/回数 | |
|------------|--|---|--|-----------------|-----------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (イ) 初期一発処理 | ガンガン豆つぶ250 ビリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 8.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ)、セリ、(コウキヤガラ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～9日/1 | 移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | クサトリエースLジャンボ カフェンストロール 7.0% ダイムロン 15.0% ペンシルフロメチル 1.7% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(セリ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～7日/1 | 移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | クラッシュEXジャンボ イマゾスルフロ 1.8% カフェンストロール 4.2% ダイムロン 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(セリ)、(藻類)(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～7日/1 | 移植後3～10日(ノビエ2葉期まで)/1 |
| | ゴウワンDLジャンボ オキサジクロメホン 0.86% クロメブロップ 4.3% ダイムロン 6.4% プロモブチド 8.6% ペンシルフロメチル 0.73% | 非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(セリ)、(藻類)(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～7日/1 | 移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | サスケーラジカルジャンボ カフェンストロール 10.5% シクロスルファミロン 2.25% ダイムロン 22.5% ベンゾビシクロン 10.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(セリ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～7日/1 | 移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | シーゼットフロアブル ビリブチカルブ 5.7% プロモブチド 10.0% ベンゾフェナップ 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ) | 土壌処理 (原液湛水散) | 移植直後～5日/1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | ネビロスーラジカルジャンボ カフェンストロール 15.0% シクロスルファミロン 3.0% ダイムロン 30.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～7日/1 | 移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | ミスターホームランドLジャンボ オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 7.0% ダイムロン 9.0% ペンシルフロメチル 1.02% | 非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(セリ)、(藻類)(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3～7日/1 | 移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|--|---|---|
| 250g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.ピリミスファン、フェキサスルホを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回以内とする。 2.ヒエ2.5葉期、ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルシ発生期、セリ再生前～始、藻類発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.豆つぶ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (300g) | 早期： 埴土～埴土 (減水深1cm /日以下) 普通期： 壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.カフェストロール、ダイロン、ベンソフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (500g) | 壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.イゾスフロロン、カフェンストロール、ダイロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、1回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ネオジクロロキサロキロン、クロムプロップ、ダイロン、プロモダクト、ベンソフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.カフェンストロール、シクロスファミロン、ダイロン、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 0.8～1リットル | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1.ピリジチアルブ、プロモダクト、ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ヒエ1.5葉期、ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.代かきから田植までの期間が長い場合は、早めに散布する。 5.水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水面全面に拡散させる。処理後湛水深3～5cmに達した時に必ず水を止め、田面水があふれないように注意する。 6.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 早期： 壤土～埴土 (減水深1cm /日以下) 普通期： 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.カフェンストロール、シクロスファミロン、ダイロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ネオジクロロキサロキロン、クロムプロップ、ダイロン、ベンソフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ヒエ・ホトメ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稲

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|----------------------|---|---|---|---|---------------------------------------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期 一発処理剤 | アトカラSジャンボMX セカンドショットSジャンボMX アジムスルフロン 0.36% ペノキススラム 0.36% メソトリオン 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、コナギに効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、ヒルムシ ロ、オモダカ、ヘラオモダ カ、クログワイ、セリ、シ ズイ、コウキヤガラ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後20日～ノビエ 3葉期(ただし、収 穫45日前まで)／1 | 移植後14日～ノ ビエ3.5葉期 (ただし、収穫 45日前まで)／ 1 |
| | イッポンD1キロ粒剤51 ダイムロン 4.0% ピラクロニル 2.0% プロモブチド 6.0% ペンスルフロンメチル 0.51% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(クログワ イ)、(オモダカ)、(ヒ ルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (田植同時散 布機で施用ま たは湛水散 布) | 移植時(田植同時散 布)または移植直後 ～9日／1 | 移植時(田植同 時散布)または 移植直後～ノビ エ2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |
| | イネキング1キロ粒剤 クサバルカン1キロ粒剤 ピラクロニル 2.0% ピラゾレート 10.0% ベンゾピシクロン 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、 コナギ、アゼナ、オモダ カに効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒ ルムシロ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植時(田植同時散 布)または移植直後 ～9 日／1 | 移植時(田植同 時散布)または 移植直後～ノビ エ2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |
| | イネキングフロアブル クサバルカンフロアブル ピラクロニル 3.0% ピラゾレート 20.0% ベンゾピシクロン 4.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、 コナギ、アゼナに効果 を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒ ルムシロ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9 日／1 | 移植時(田植同 時散布)または 移植直後～ノビ エ2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |
| | イネキングジャンボ クサバルカンジャンボ ピラクロニル 4.0% ピラゾレート 20.0% ベンゾピシクロン 4.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、 コナギ、アゼナ、オモダ カに効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒ ルムシロ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後1日～9 日／1 | 移植後1日～ノ ビエ2.5葉期 (ただし移植後 30日まで)／1 |
| | ウィナー1キロ粒剤51 イブフェンカルバゾン 2.5% プロモブチド 9.0% ペンスルフロンメチル 0.51% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、 コナギ、アゼナにも効果 を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒ ルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (田植同時散 布機で施用ま たは湛水散 布) | 移植時(田植同時散 布)または移植直後 ～9日／1 | 移植時(田植同 時散布)または 移植直後～ノビ エ2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |
| | ウィナーLフロアブル イブフェンカルバゾン 5.0% プロモブチド 18.0% ペンスルフロンメチル 1.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、 コナギ、アゼナにも効果 を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(ヒルムシ ロ)、(セリ)、(クログ ワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (原液湛水散 布) | 移植直後～9 日／1 | 移植時田植同時 散布または移植 直後～ノビエ 2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |
| | ウィナーLジャンボ イブフェンカルバゾン 5.0% プロモブチド 18.0% ペンスルフロンメチル 1.02% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも 効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、ヒルムシ ロ、(オモダカ)、(ク ログワイ)、セリ、アオミド ロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビ エ2.5葉期(た だし移植後30日 まで)／1 |

| 10a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|----------------------------|---|---|
| 小包装20個 (500g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり20個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. アジメスルホン、ベノキサム、トリコサを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、 2回以内とする。 2. 1/2エ3葉期、ホタルイ草丈10cmまで、ウリカワ4葉期まで、ミズガヤツリ草丈15 cmまで、ヒルムシロ発生盛期まで、オモダカ矢じり葉3葉期まで、クログワイ・コ ウキヤガラは草丈20cmまでに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. ダイロン、ピラコニル、プロモフット、ベンズルフロニチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3 回（育苗箱散布は1回、本田では2回）、2回、2回、2回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. ピラコニル、ピララート、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2 回、3回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカ2葉期、クログワイ、オモダカは発生前～発生始、ヒ ルムシロ発生期、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1. ピラコニル、ピララート、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2 回、3回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカ2葉期、ヒルムシロ発生期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (500g) | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. ピラコニル、ピララート、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2 回、3回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカ2葉期、ヒルムシロ発生期、アオイトロ・藻類による表 層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. イプフェカルバゾン、プロモフット、ベンズルフロニチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、オモダカ、クログワイ発生始期、ヒルムシロ発生 期、切り再生前～再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1. イプフェカルバゾン、プロモフット、ベンズルフロニチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、オモダカ、クログワイ発生始期、ヒルムシロ発生 期、切り再生前～再生始期、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用す る。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (500g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. イプフェカルバゾン、プロモフット、ベンズルフロニチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルムシロ発生期、切り再生前～再生始期 までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|------------------------------|---|-------------------------------------|---|---|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期 一発 処理 剤 | ウィニングランジャンボ イブフェンカルバゾン 5.0% プロモフチド 18.0% ペンシルフロメチル 1.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで | 移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで |
| | ウィニングラン1キロ粒剤 イブフェンカルバゾン 2.5% プロモフチド 9.0% ペンシルフロメチル 0.75% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布) | 移植時(田植同時)または移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで | 移植時(田植同時)または移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで |
| | エンペラー1キロ粒剤 ピラクロニル 2.0% ピリミノバックメチル 0.75% フェンキノトリオン 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布) | 移植時(田植同時)または移植直後～11日/1 | 移植時または移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで) |
| | エンペラージャンボ ピラクロニル 8.0% ピリミノバックメチル 3.0% フェンキノトリオン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～11日/1 | 移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで) |
| | エンペラー豆つぶ250 ピラクロニル 8.0% ピリミノバックメチル 13.0% フェンキノトリオン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布、湛水周縁散布、水口施用または無人航空機による散布) | 移植直後～11日/1 | 移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後75日まで) |
| | カチボシ1キロ粒剤51 イブフェンカルバゾン 2.5% テフアルトリオン 2.0% ペンシルフロメチル 0.51% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植時(田植同時)または移植直後～9日/1 | 移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期 |
| | カチボシLフロアブル イブフェンカルバゾン 5.0% テフアルトリオン 4.0% ペンシルフロメチル 1% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (原液湛水散布) | 移植直後～9日/1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで) |

| 10a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|----------------------------|---|---|
| 小包装10個 (500g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. イプフェカルバゾソ、ブロモフル、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 3. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. イプフェカルバゾソ、ブロモフル、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 3. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植え、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 4. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. ビラクロニル、ピリミノバクメチル、フェキニリアオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以 内とする。 2. ビエ・ホルイ・ウリカは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、クログワイは発生前、ホタ カ・コキヤガワは発生盛期まで、ヒルシロは発生期まで、セは再生期まで、アホト・ロ・藻類に よる表層はく離は発生盛期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植え、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (250g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. ビラクロニル、ピリミノバクメチル、フェキニリアオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以 内とする。 2. ビエ・ホルイ・ウリカは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、ホタカ・クログワイ・コキヤ ガワは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セは再生期まで、アホト・ロ・藻類による表層 はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (250g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水散布の場合は田面に 散布、湛水周縁散布の場 合は水田周縁部に帯状に 散布する。水口施用の場 合はあらかじめ1～2cm 程度水深を確保した状態 で入水時に本剤を水口施 用し、流入水とともに水 田全面に拡散させ、施用 後田面水が通常の湛水状 態に達した時に必ず水を 止め、田面水があふれ出 ないように注意する。 | 1. ビラクロニル、ピリミノバクメチル、フェキニリアオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以 内とする。 2. ビエ・ホルイ・ウリカは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、ホタカ・クログワイ・コキヤ ガワは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セは再生期まで、アホト・ロ・藻類による表層 はく離は発生前までに使用する。 3. 湛水散布、湛水周縁散布はやや深めの湛水（水深5～6cm）にして水の出入りを 止める。 4. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. 藻類・表層はく離などの水田浮遊物が多い場合は拡散が不十分になるおそれがある ので、周縁散布または水口施用を避け、本田内で水田全面に散布する。 7. 水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は拡散が不十分にな るおそれがあるため、水口施用を避ける。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. イプフェカルバゾソ、テラトリオン、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. ビエ2.5葉期まで、ホルイ・ミズガヤツリ・ウリカは2葉期まで、クログワイ・ホタカは発生前 から発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セは再生前から再生始期まで、アホト・ロ・藻 類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1. イプフェカルバゾソ、テラトリオン、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. ビエ2.5葉期まで、ホルイ・ミズガヤツリ・ウリカは2葉期まで、クログワイ・ホタカは発生前 から発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セは再生前から再生始期まで、アホト・ロ・藻 類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|---------------|--|--|--|-----------------------------|------------------------------------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期一発処理剤 | カチボシLジャンボ イブフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 6.7% ペンソルフロンメチル 1.7% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)／1 |
| | キクトモ1キロ粒剤 カフェンストロール 3.0% ジメタメトリン 0.60% ダイムロン 9.0% ベンソピシクロン 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。藻類に効果が高い。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、アオミドロ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布) | 移植時(田植同時散布)または移植直後～9日／1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | キマリテ1キロ粒剤 イブフェンカルバゾン 2.5% テフリルトリオン 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ | 土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布) | 移植時(田植同時散布)または移植直後～11日／1 | 移植時または移植直後～ノビエ3葉期(ただし、収穫30日前まで) |
| | 銀河ジャンボ ダイムロン 25.0% ピラクロニル 5.0% メタゾスルフロン 2.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後5～11日／1 | 移植後5日～ノビエ3葉期まで(ただし、収穫60日前まで) |
| | クサトッタ1キロ粒剤 (スラッシュヤ1キロ粒剤) ジメタメトリン 0.60% ピラゾレート 12.0% アレチカロール 4.5% プロモフチド 6.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布) | 移植時または移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)／1 | 移植時または移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | コメット1キロ粒剤 テフリルトリオン 2.0% ピラクロニル 2.0% メタゾスルフロン 0.60% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後5～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | サラブレッドG01キロ粒剤 イマゾスルフロン 0.9% キキサジクロメホン 0.6% ピラクロニル 1.0% プロモフチド 9.0% | 非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布) | 移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 | 移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | サラブレッドG0フロアブル イマゾスルフロン 1.7% キキサジクロメホン 1.1% ピラクロニル 1.9% プロモフチド 16.7% | 非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用、原液湛水散布) | 移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 | 移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |

| 10a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|----------------------------|---|--|
| 小包装10個 (300g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. イプフェカルバゾン、テフルトリオン、ベソルフロニチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. ルビエ2.5葉期まで、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ・ウリカは2葉期まで、クログワイ・モダカは発生前 から発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオイトロ・藻 類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. カフェストロール、ジメタトリン、ガムロン、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ 1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、3回以内とする。 2. ルビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期まで、ヒルシロは発生期まで、アオイトロ・ 藻類による表層はく離は発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. イプフェカルバゾン、テフルトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ルビエ・ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリは3葉期まで、クログワイ・モダカは発生始期まで、ヒルシ ロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (400g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. ガムロン、ピラクロニル、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数は3回(育苗箱散布は1 回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2. ルビエ・ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生始期ま で、モダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ・コキヤガラは草丈30cmまで、アオイトロ・藻類に よる表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均等に散布する。 | 1. ジメタトリン、ピラフェント、プレチアクロニル、プロモプチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ 2回以内とする。 2. ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリは2葉期まで、ヘラモダカは発生始期まで、ヒルシロは発生期ま で、セリは再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均等に散布す る。 | 1. テフルトリオン、ピラクロニル、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とす る。 2. ルビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミズガヤツリ2葉期まで、モダカ・クログワイは発生始期まで、 ヒルシロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均等に散布す る。 | 1. イマゾスルフロニ、キサジクロホニ、ピラクロニル、プロモプチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ 2回以内とする。 2. ホタルイ、ウリカは3葉期まで、ヘラモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルシ ロは発生期まで、セリは再生期まで、モダカ・コキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始 期、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1. イマゾスルフロニ、キサジクロホニ、ピラクロニル、プロモプチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ 2回以内とする。 2. ホタルイ、ウリカは3葉期まで、ヘラモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルシ ロは発生期まで、セリは再生期まで、モダカ・コキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始 期、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|---------------|--|---|---|-----------------------------|--------------------------------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期一発処理剤 | サラブレッドGOジャンボ イマゾスルフロン 2.25% チキサジクロメホン 1.5% ピラクロニル 2.5% プロモフチン 22.5% | 非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | サラブレッドGO400FG イマゾスルフロン 2.25% チキサジクロメホン 1.5% ピラクロニル 2.5% プロモフチン 22.5% | 非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布、湛水周縁散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | サラブレッドRXフロアブル イマゾスルフロン 1.7% オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 6.6% ダイムロン 9.5% | 非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(クログワイ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (原液湛水散布) | 移植後5～9日 / 1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | ジェイフレンド1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.3% テフリルトリオン 3.0% ピラクロニル 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植時(田植同時散布)または移植直後～11日 / 1 | 移植時～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 2 |
| | ジェイフレンドジャンボ オキサジクロメホン 0.75% テフリルトリオン 7.5% ピラクロニル 5.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後5～11日 / 1 | 移植後5日～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | シェリフ1キロ粒剤 イマゾスルフロン 0.90% シハロホップブチル 1.8% ジメタメトリン 0.60% プレチラクロール 4.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、藻類、表層はく離、(ヒルムシロ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(セリ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後7～11日 / 1 | 移植後5日～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | シリウスエグザ1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.40% ピラクロニル 2.0% ピラソスルフロンエチル 0.30% ベンゾピシクロン 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布) | 移植時(田植同時散布)または移植直後～9日 / 1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |
| | シリウスエグザジャンボ オキサジクロメホン 1.4% ピラクロニル 6.6% ピラソスルフロンエチル 1.0% ベンゾピシクロン 6.7% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日 / 1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1 |

| 10a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|--|---|---|
| 小包装10個 (400g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | 1. イゾスルフロン、オキサジクロホロン、ピラクロール、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホルイ、ウリカは3葉期まで、ミスガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオトドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 400g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔に沿って一周し、数回に分けて手まきで散布する。 | 1. イゾスルフロン、オキサジクロホロン、ピラクロール、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホルイ、ウリカは3葉期まで、ミスガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオトドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保って散布する(最も浅いところでも4～5cm以上の水深にする)。 4. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. 風がある場合は、風下からの散布は行わないようにする。 7. 藻類や稲ワラ等の吹寄せの上に散布しない。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。 | 1. イゾスルフロン、オキサジクロホロン、クロアロップ、タイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2. ヒェ2.5葉期、ホルイ・ウリカ・ミスガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。 | 1. オキサジクロホロン、テフリトリオン、ピラクロールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ヒェ・ホルイ・ミスガヤツリ・ウリカは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生前から発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田では使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (400g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | 1. オキサジクロホロン、テフリトリオン、ピラクロールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ヒェ・ホルイ・ミスガヤツリ・ウリカは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生前から発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田では使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1kg | 壤土～埴土 早期： (減水深1cm /日以下) 普通期： (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは散粒機等で均等に散布する。 | 1. イゾスルフロン、シロホップブチル、ジメタリリン、プレチアコールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回、2回、2回以内とする。 2. ヒェ3葉期、ホルイ・ウリカ・ミスガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。 | 1. オキサジクロホロン、ピラクロール、ピラゾスルフロエチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回、3回以内とする。 2. ヒェ2.5葉期、ホルイ・ウリカ・ミスガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生始期まで、アオトドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (300g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | 1. オキサジクロホロン、ピラクロール、ピラゾスルフロエチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回、3回以内とする。 2. ヒェ2.5葉期、ホルイ・ウリカ・ミスガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稲

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|----------------------|--|--|---|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期 一発処理剤 | シロノックLジャンボ カフェンストロール 7.1% ダイムロン 14.3% ベンスルフロンメチル 1.5% ベンゾピシクロン 5.7% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後5～9日／1 | 移植後3日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ジェイソウルジャンボ シクロピリモレート 6.7% ピラゾレート 13.3% フェントラザミド 6.7% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後1日～9日／1 | 移植後1日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ジェイソウル1キロ粒剤 シクロピリモレート 3.0% ピラゾレート 6.0% フェントラザミド 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布) | 移植時(田植同時散布)または移植直後～9日／1 | 移植時～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ジェイソウルフロアブル シクロピリモレート 5.5% ピラゾレート 11.0% フェントラザミド 4.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (原液湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ツルギフロアブル イブフェンカルバゾン 5.0% イマズスルフロン 1.8% ベンゾピシクロン 4.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、うりかわ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ | 土壌処理 (原液湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) |
| | セイテンジャンボ オキサジクロメホン 2.4% ジメタメトリン 2.4% フェンキノトリオン 12.0% ベンスルフロンメチル 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで) | 同左 |
| | セイテン1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.80% ジメタメトリン 0.60% フェンキノトリオン 3.0% ベンスルフロンメチル 0.75% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで) | 同左 |
| | トップガンR豆つぶ250 ビリミノバックメチル 1.8% プロモブチド 36.0% ベンスルフロンメチル 3.0% ペントキサゾン 8.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、シズイ、セリ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|-------------------|----------------------------|---|---|
| 小包装10個 (350 g) | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. カフェストロール、ダイムロン、ベンスルフロニチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、3回（育苗箱散布は1回、本田では2回）、2回、3回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ウリカハ・ミスガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 5. カフェンストロールを含む剤は補植苗での薬害が著しいので、補植後5日はあける。 |
| 小包装10個 (450 g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま均等に投げ入れる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シクロリモレート、ピララレート、フェントラミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカハは3葉期まで、ホタルイは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4. 散布後3～4日間は水深5～6 cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シクロリモレート、ピララレート、フェントラミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカハは2葉期まで、ホタルイは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. 1キログラム剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シクロリモレート、ピララレート、フェントラミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカハは3葉期まで、ホタルイは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 500ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イプフェカルバツソ、イゾスルフロ、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカハは2葉期まで、ホタルイ・クログワイは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生前から再生始期まで、コキヤカラは発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり10個の割合で均等に投げ入れる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オキサジクロネチル、ジメタトリン、フェキナトリン、ベンスルフロニチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ、ウリカハは2葉期、ハラホタルイは1葉期、ホタルイ、クログワイ、コキヤカラは発生始期まで、ミスガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生までに使用する。 3. 5～6 cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オキサジクロネチル、ジメタトリン、フェキナトリン、ベンスルフロニチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ、ウリカハは2葉期、ハラホタルイは1葉期、ホタルイ、クログワイ、コキヤカラは発生始期まで、ミスガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生までに使用する。 3. 5～6 cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 250g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して、手まきまたは散粒機等で均等に散布する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ビリミバクメチル、プロモフチド、ベンスルフロニチル、ベンチキサゲンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. 1/2エ2.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカハは2葉期まで、ホタルイ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セヒは再生始期まで、アオトビロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 |

水稲

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|------------------|---|--|--|----------------|------------------------------|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農業使用基準 |
| (ウ) 初・中期一発処理剤 | トップガンR1キロ粒剤 ビリミノバックメチル 0.45% プロモブチド 9.0% ペンシルフロンメチル 0.75% ペントキサゾン 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、シズイ、セリ、藻類、表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | トップガンRジャンボ ビリミノバックメチル 1.8% プロモブチド 36.0% ペンシルフロンメチル 3.0% ペントキサゾン 8.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ナギナタジャンボ オキサジクロメホン 1.6% ビリミスルファン 2.2% ベンゾピシクロン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。イボクサ、アシカキにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(コウキヤガラ)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3日～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで)／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで)／1 |
| | ナギナタ豆つぶ オキサジクロメホン 1.6% ビリミスルファン 2.2% ベンゾピシクロン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。イボクサ、アシカキにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(コウキヤガラ)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3日～9日／1 | 移植後3日～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで)／1 |
| | パッチリジャンボ イマゾスルフロン 2.25% ピラクロニル 5.0% プロモブチド 22.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ) | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | パッチリLXジャンボ イマゾスルフロン 2.25% オキサジクロメホン 0.75% ピラクロニル 5.0% プロモブチド 22.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日／1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)／1 |
| | フルパワーMXジャンボ センイチMXジャンボ ピラクロニル 4% フルセトスルフロン 0.4% メソトリオン 1.8% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバ、ウリカワ、ミズガヤツリ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後1日～ノビエ3葉期但し収穫60日前まで／1 | 移植後1日～ノビエ3.5葉期但し収穫60日前まで／1 |

| 10a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|----------------------------|---|--|
| 1 kg | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均一に散布する。 | 1.ピリミナバクメチル、プロモプチド、ペンスルフロンメチル、ベンチキサゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカは2葉期まで、モダガカ・クダグワイは発生始期まで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ピリミナバクメチル、プロモプチド、ペンスルフロンメチル、ベンチキサゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカは2葉期まで、モダガカ・クダグワイは発生始期まで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (250g) | 砂壌土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.オキサジクロホソ、ピリミスルファン、ベンゾビシクロソを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカ2葉期、モダガカ、クダグワイ、コウキガウ発生始期、ヒルムシ発生期、セリ再生始期までに散布する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 250g | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.オキサジクロホソ、ピリミスルファン、ベンゾビシクロソを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカは2葉期まで、モダガカ、クダグワイ、コウキガウは発生始期まで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに散布する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 |
| 小包装10個 (400g) | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.イマゾスルロン、ピラクロニル、プロモプチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ウリカ2葉期、モダガカ・クダグワイは発生始期まで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生前～再生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (400g) | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日未満) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.イマゾスルロン、オキサジクロホソ、ピラクロニル、プロモプチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ2,5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミスガヤツリは2葉期まで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生期から再生始期まで、モダガカ・クダグワイは発生前から発生始期まで、コウキガウは発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装10個 (500g) | 砂壌土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ピラクロニル、フルセスルロン、メトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ルピエ・ミスガヤツリ・ウリカは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、モダガカは発生始期まで、クダグワイ・コウキガウは草丈10cmまで、ヒルムシは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稲

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期/回数 | |
|--------------------------|--|-------------------------------------|---|-----------------|---|--|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (ウ) 初・中期 一発 処理剤 | ベッカクジャンボ ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、多年生広葉雑草 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3日～11日/1 | 移植3日後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) |
| | ベッカク豆つぶ250 ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 12.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、多年生広葉雑草 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後3日～11日/1 | 移植3日後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) |
| | ホットコンビフロアブル テニルクロール 4% ベンゾビシクロン 4% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ | 土壌処理 (原液湛水散) | 植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし、移植後30日まで)/2 | 植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし、移植後30日まで)/2 |
| | ラオウ1キロ粒剤 ダイムロン 6.0% フェノキサスルホン 1.5% フェンキノトリオン 2.5% ペンシルフロンメチル 0.75% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日/1 | 移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | ラオウジャンボ ダイムロン 24.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 10.0% ペンシルフロンメチル 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～9日/1 | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1 |
| | ルンバ薬粒 オキサジクロメホン 2.4% プロモブチド 36.0% フルピラウキシフェンベンジル 1.8% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1 | 同左 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|-------------------|----------------------------|---|---|
| 小包装10個 (250 g) | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ピリミスルフェン、フェナキサロル、フェキニトリンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.レピエ・ミスガヤツリ・ウリカは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキカワは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生期まで、キョウスズメバエは再生茎2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 250g | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.ピリミスルフェン、フェナキサロル、フェキニトリンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.レピエ・ミスガヤツリ・ウリカは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキカワは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生期まで、キョウスズメバエは再生茎2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 |
| 300ml | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。 | 1.テメクロール、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回以内とする。 2.レピエ1.5葉期、ホタルイ・ミスガヤツリ・ヒルシロは発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1kg | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 移植時に田植同時散布機 で施用または湛水して、 手まきもしくは散粒機等 で均一に散布する。 | 1.ダイトン、フェナキサロル、フェキニトリン、ベンズルフロニメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回、2回、2回以内とする。 2.レピエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカ・ミスガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、活着遅延を生じるような異常低温の時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い、植穴の戻りの悪い水田は使用を避ける。 |
| 小包装10個 (250 g) | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.ダイトン、フェナキサロル、フェキニトリン、ベンズルフロニメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回、2回、2回以内とする。 2.レピエは2.5葉期、ホタルイ・ウリカは2葉期まで、ミスガヤツリは草丈10cmまで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルシロは発生期まで、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、活着遅延を生じるような異常低温の時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗、植穴の戻りの悪い水田が多い水田は使用を避ける。 |
| 250g | 砂壌土～植土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.オキサジメチル、プロモアチド、フルビラキニフェンジンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ、2回、2回、3回以内とする。 2.レピエは2.5葉期、ホタルイ、ウリカは2葉期、ミスガヤツリは草丈15cmまで、ヒルシロは発生期、セリは再生期、オモダカは発生期までに使用する。 3.5～6cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|--------------|--|-------------------------------------|--|-----------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (エ) 中・後期剤 | アトリ1キロ粒剤 ピリミスルファン 0.75% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | ノビエ、多年生広葉雑草 | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後20日(イネ5葉期以降)～収穫45日前まで／1 | 移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)／1 |
| | アトリ豆つぶ250 ピリミスルファン 3.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、ノビエ、ウリカワ、シズイ、セリ、ヒルムシロ、ミズガヤツリ | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)／1 | 移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)／1 |
| | ウィードコア1キロ粒剤 フロルビラカキソフェンベシメ 0.4% ペノキスラム 0.5% ベンゾピシクロン 2.0% | ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、キシユウズメノヒエ、多年生広葉雑草 | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後7日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで) | 移植後7日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで) |
| | ウィードコアジャンボSD フロルビラカキソフェンベシメ 2.0% ペノキスラム 2.5% ベンゾピシクロン 10.0% | ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後10日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)／2 | 同左 |
| | ウィードコア200SD粒剤 フロルビラカキソフェンベシメ 2.0% ペノキスラム 2.5% ベンゾピシクロン 10.0% | ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ | 土壌処理 (湛水散布) | 移植後10日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)／2 | 同左 |
| | クリンチャーバスME液剤 シハロホップブチル 3.0% ペンタゾンナトリウム塩 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、キシユウズメノヒエ、(セリ) | 茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20日～ノビエ4葉期まで(ただし収穫50日前まで)／2 | 移植後15日～ノビエ5葉期まで(ただし収穫50日前まで)／2 |
| | ゲバード1キロ粒剤 ダイムロン 10.0% ピラクロニル 2.0% ベンゾピシクロン 2.0% メタゾスルフロン 1.2% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 一年生雑草、多年生広葉雑草 | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後14日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)／1 | 移植後14日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)／1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|------------------------------|---|---|
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.ピリミルファンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.モダカは矢尻葉3葉期まで、クワライ・コキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。 |
| 250g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.ピリミルファンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.ルビエ4葉期まで、ミスガヤリは7葉期まで、モダカは矢尻葉3葉期まで、クワライ・コキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～4日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.フロルピラキフェン、ベネクスラム、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 3.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 4.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。 |
| 小包装10個 | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1.フロルピラキフェン、ベネクスラム、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.ホムイは4葉期、マツバイは発生期、ミスガヤリは草丈25cm、ウリカは3葉期、ヒムシロは発生盛期、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 |
| 200g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.フロルピラキフェン、ベネクスラム、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.ホムイは4葉期、マツバイは発生期、ミスガヤリは草丈25cm、ウリカは3葉期、ヒムシロは発生盛期、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 |
| 1000ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 落水またはごく浅く湛水 した状態で、10 a 当たり 70～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 | 1.シロホップフチル、ベンゾピシロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2.初期または一発処理剤との体系で使用する。 3.ホムイ・ウリカ・ミスガヤリ発生盛期～増殖中期、モダカ草丈15cm以下、クワライ草丈20cm以下、畦畔から侵入するキヌウス・メルヒエほふく茎1m以内までに使用する。 4.落水状態で散布し、3日間(浅水処理は5日間)は水の移動を行わない。 5.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6.高温時、軟弱苗、重複散布では葉害がやすいので注意する。 7.展着剤は使用しない。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1.ゲイムロン、ピラクロル、ベンゾピシロン、メダスルホンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、3回、2回以内とする。 2.ルビエ4葉期まで、ホムイは花茎20cmまで、ウリカ・ミスガヤリは4葉期まで、モダカは矢尻葉3葉期まで、クワライ・コキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|------------------|--|---|--|--------------------------------|---|---|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (エ) 中・後期 剤 | ソニックブームSジャンボ サイラ (シクロピリモレート) 3.0% テフリルトリオン 4.0% シメトリン 3.0% ペノキススラム 1.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後14日 (稲4葉期以降) ~ノビエ4葉期 (ただし、収穫60日前まで) / 1 | 同左 |
| | ツイゲキ豆つぶ250 シメトリン 12.0% ピリミスルファン 3.0% フェンキノトリオン 10.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離 | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後14日 (稲5葉期以降) ~ノビエ4葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 | 移植後14日 (稲5葉期以降) ~ノビエ4葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 |
| | ツイゲキ1キロ粒剤 シメトリン 3.0% ピリミスルファン 0.75% フェンキノトリオン 2.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | アオミドロ、藻類による表層はく離、一年生雑草、多年生雑草 | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後14日 (稲5葉期以降) ~ノビエ4葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 | 移植後14日 (稲5葉期以降) ~ノビエ4葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 |
| | ツインスタージャンボ ダイムロン 25.0% メタゾスルフロン 2.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(クログワイ)、セリ、(コウキヤガラ) | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後15日~30日 (ノビエ3葉期まで) (ただし収穫60日前まで) / 1 | 移植後5日~ノビエ3葉期 (ただし、収穫60日前まで) / 1 |
| | トドメMF1キロ粒剤 メタミホップ 1.35% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | ノビエ | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植14日~ノビエ5葉期まで (ただし、収穫50日前まで) / 3 | 移植14日~ノビエ5葉期まで (ただし、収穫50日前まで) / 3 |
| | バサグラン粒剤 ベンタゾンナトリウム塩 11.0% | 非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。 | 水田一年生雑草 (イネ科を除く) 及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ、シズイ | 茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20~30日 (ただし収穫60日前まで) / 1 | 移植後15~55日 (ただし収穫60日前まで) / 1 |
| | バサグラン液剤 ベンタゾンナトリウム塩 40.0% | 非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。 | 水田一年生雑草 (イネ科を除く) 及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、クサネム、 | 茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20~30日 (ただし収穫50日前まで) / 2 | 移植後15~55日 (ただし収穫50日前まで) / 2 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|------------------------------|---|---|
| 20個 | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり20個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. シロピリレート、シメリン、テフルトリホ、ベノキサラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回 以内とする。 2. ホルイは草丈15cm、ヘラホダカ、ウリカは5葉期、ミズガヤツリは草丈25cm、クマガイは草丈20 cm、モダカは矢じり葉4葉期、ヒルシロは発生盛期、シズイは草丈20cm、アオトドロ・藻類に よる表層はく離は発生初期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 |
| 250g | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. シメリン、ピリミスフラン、フェネクトリホを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とす る。 2. ヒエ4葉期まで、ウリカは5葉期まで、ホルイ・ミズガヤツリは草丈20cmまで、クマガイ・コ ウキガハは草丈30cmまで、モダカは矢尻葉4葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想さ れる時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. 散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下する恐れがあるので使 用を避ける。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. シメリン、ピリミスフラン、フェネクトリホを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とす る。 2. ヒエ4葉期まで、ホルイは草丈20cmまで、ミズガヤツリ・ウリカは5葉期まで、クマガイ・コ ウキガハは草丈30cmまで、モダカは矢尻葉4葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下する恐れがあるので使 用を避ける。 |
| 小包装10個 (400g) | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. ダイムロン、メダスフランを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、 本田では2回)、2回以内とする。 2. ホルイ3葉期、ウリカ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルシロ発生期、セリ再生前～始までに使用する。 3. 散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4. 散布時に藻類・表層剥離などの浮遊物が多いと部分的な薬害や効果不足を生じる ことがある。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. マシップを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. ヒエ5葉期までに使用する。 3. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場合はそれらに有効な剤と 組み合わせ使用すること。 4. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植や深植した水田は使用を避ける。 6. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 3～4 kg | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 落水またはごく浅く湛水 して手まきまたは散粒機 等で均一に散布する。 | 1. ベンタツを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 落水直後処理とし、散布後3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。 3. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく 見きわめてから散布する。 4. ホルイ・ウリカ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モダカ発生盛期～発生揃期、クマガイ草 丈15cm以下までに使用する。 5. クマガイ多発田では、クマガイに有効な前処理剤との体系処理をする。 |
| 500～700ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 落水またはごく浅く湛水 した状態で、10 a 当たり 70～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 | 1. ベンタツを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. クマガイは2回以内、その他の雑草は1回の使用とする。 3. 落水して、雑草に十分かかるよう散布する。散布後3日間(浅水処理は5日間) は入水しない。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく 見きわめてから散布する。 5. ホルイ・ウリカ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モダカ発生盛期～発生揃期、クマガイ草 丈15cm以下、コウキガハ増殖期までに使用する。 6. クマガイ多発田では、クマガイに有効な前処理剤との体系処理をする。 7. 高温時、重複散布では薬害を生じやすいので注意する。 8. 展着剤の加用は必要ない。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期/回数 | |
|----------------------------------|---|-------------------------------------|--|-----------------------------------|---|---|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (エ)中・後期剤 | モゲトン粒剤 ACN 9.0% | 非ホルモン型接触性の除草剤で、土壌中の移動性は小さい。 | ウキクサ類、藻類 (アオミドロ、アミミドロ) | 茎葉処理 (湛水散布) | 発生始～盛期 (ただし収穫45日前まで) / 3 | 同左 |
| | | | ヒルムシロ | | 発生始～増殖始 (ただし収穫45日前まで) / 3 | |
| | モゲトンジャンボ ACN 9.0% | 非ホルモン型接触性の除草剤で、土壌中の移動性は小さい。 | ウキクサ類、表層はく離、(藻類) | 茎葉処理 (湛水散布) | 発生時 (ただし収穫45日前まで) / 3 | 同左 |
| | ワイドアタックSC ペノキススラム 3.6% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 一年生雑草、多年生広葉雑草 | 茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20日 (イネ5葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫30日前まで) / 2 | 同左 |
| | ワイドショット1キロ粒剤 テフリルトリオン 3.0% ペノキススラム 0.5% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後15日～ノビエ4葉期 (ただし収穫45日前まで) / 1 | 移植後15日～ノビエ4葉期 (ただし収穫45日前まで) / 1 |
| | フォローアップ1キロ粒剤 ワイドアタックD1キロ粒剤 ダイムロン 10.0% ペノキススラム 0.60% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ | 茎葉兼土壌処理 (湛水散布) | 移植後20日 (イネ4葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 | 移植後15日 (イネ4葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1 |
| | ロイヤント乳剤 フロピラクシフェンベンゾール 2.7% | ホルモン型の移行性除草剤である。 | 一年生広葉雑草及びノビエ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、セリ | 茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20日～ノビエ5葉期まで (ただし収穫45日前まで) / 1 | 移植後20日～ノビエ5葉期まで (ただし収穫45日前まで) / 1 |
| 2,4-Dアミン塩 2,4-PAジメチルアミン 49.5% | ホルモン型の吸収移行性除草剤で広葉雑草に対する効果を有する。 | 水田雑草 (イネ科を除く) | 茎葉処理 (落水散布) | 有効分げつ終止期～幼穂形成期前 (ただし収穫60日前まで) / 1 | 同左 | |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|----------------------------|---|---|
| 2～3 kg | 砂壤土～埴土 (減水深3cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. ACNを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 散布は雑草が水没する程度の湛水状態でいい、散布後3～4日間は水の移動（入水、落水等）をしない。 3. 対象雑草が発生してから散布する。 4. イネが水没するような深水中で使用すると薬害のおそれがある。 5. イチョウウキゴケ（イチョウモ）には効果が劣る。 |
| 3～4 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | | |
| 20個 (1kg) | 壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って10 a 当たり 20個の割合で均等に投げ 入れる。 | 1. ACNを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 3. 対象雑草の発生が進んでからだと拡散が不十分となり効果が劣る場合があるので、発生初期に散布する。 4. イネが水没するような深水中で使用すると薬害のおそれがある。 |
| 100ml | 砂壤土～埴土 | 落水またはごく浅く湛水 した状態で、10 a 当たり 100リットルの水に溶き、噴霧 機等で散布する。 | 1. ベ ^o ノキスラムを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. ホルイ花茎抽出始、ウリカ・ミスガヤツリ6葉期、クサ草丈20cm、クログワイ・ホダガ草丈30cm までに使用する。 3. 散布後2日間（浅水処理は3日間）は、水の移動は行わない。 4. 散布後1日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 薬害のおそれがあるので展着剤は添加しない。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. テフルリカ、ベ ^o ノキスラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビ ^o エ・ホルイ・ミスガヤツリ・ウリカは4葉期まで、ホダガは草丈30cm、クログワイは草丈20cm までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 処理後数日、異常高温が続くことが予想される場合、砂質土壌、漏水田、軟弱 苗、極端な深植した水田は使用を避ける。 5. 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発 生する恐れがあるため使用を避ける。 6. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. ダムロン、ベ ^o ノキスラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回（育苗箱散布は1回、 本田では2回）、2回以内とする。 2. ホルイ5葉期、ウリカ4葉期・ミスガヤツリ3葉期、クログワイ・ホダガ草丈30cm、ヒルシロ生育 期までに使用する。 3. 散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4. 散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候を よく見きわめてから散布する。 |
| 200ml | 砂壤土～埴土 | 落水またはごく浅く湛水し た状態で、10 a 当たり25～ 100リットルの水に溶き、噴霧 機等で散布する。 | 1. フロビ ^o ラキフェンソ ^o ルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. ミスガヤツリは草丈25cmまで、ウリカは6葉期まで、セは増殖期まで、ホダガは矢じり葉 3葉期まで、アセガヤは草丈30cmまでに使用する。 3. ホルイ、クログワイ、コキヤ ^o ラには効果が低いので、それら雑草が混在する場合はそれら に有効な剤と組み合わせて使用すること。 4. 土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあるので、落水状態で散 5. 幼穂形成期以降の散布では、葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、 収量への影響は認められていない。 6. 展着剤は添加しない。 |
| 80～120g | 全 土 壌 | 落水状態で、10 a 当たり 70～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 | 1. 2,4-PAを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. アミン塩は散布1～2日前に落水して散布し、散布後2～3日おいて入水する。 3. 粒状水中2,4-Dは散布時に雑草が水面下にかくれるまで入水し、散布後2昼夜は 田の水を動かさない。 4. 付近の作物にかからないよう注意する。 5. 使用機具の洗浄を十分に行う。 6. 散布直後に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見 きわめてから散布する。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|---------------------------------|---|---|---|------------------------------|--|------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| (エ) 中・後期剤 | MCPソーダ塩 MCPAナトリウム塩 19.5% | | 水田一年生雑草（イネ科を除く）、マツバイ、ウリカワ、オモダカ、セリ | 茎葉処理 (落水散布) | | |
| | ワイドパワー粒剤 ベノキスラム 0.12% ペンタゾンナトリウム塩 11.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ) | 茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後20日～ノビエ5葉期（ただし収穫60日前まで）／1 | 同左 |
| | ノミニー液剤 ビスピリバックナトリウム塩 2.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | クサネム、(イボグサ) | 茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布) | 移植後30日～クサネムの草丈40cm（イボグサの茎長30cm）（ただし収穫60日前まで）／1 | 同左 |
| (オ) ヒエ処理剤 | クリンチャー1キロ粒剤 シハロホップブチル 1.8% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、田面水を介して付着・吸収される。土壌中での残効は極めて短い。 | ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後7日～ノビエ3葉期（ただし収穫30日前まで）／2 | 移植後7日～ノビエ4葉期（ただし収穫30日前まで）／2 |
| | | | | | 移植後25日～ノビエ4葉期（ただし収穫30日前まで）／2 | 移植後25日～ノビエ5葉期（ただし収穫30日前まで）／2 |
| | クリンチャージャンボ シハロホップブチル 1.8% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、田面水を介して付着・吸収される。土壌中での残効は極めて短い。 | ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後15日～ノビエ3葉期（ただし収穫40日前まで）／2 | 同左 |
| | | | | | 移植後25日～ノビエ4葉期（ただし収穫40日前まで）／2 | 同左 |
| | クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ | 茎葉処理 (湛水散布または落水散布) | 移植後20日～ノビエ5葉期（ただし収穫30日前まで）／2 | 移植後20日～ノビエ6葉期（ただし収穫30日前まで）／2 |
| | ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤 ビリミノバックメチル 1.2% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | ノビエ | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後15日～ノビエ4葉期（ただし収穫45日前まで）／1 | 同左 |
| ヒエクリーン豆つぶ250 ビリミノバックメチル 4.8% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | ノビエ | 茎葉処理 (湛水散布) | 移植後15日～ノビエ3葉期（ただし収穫45日前まで）／1 | 移植後15日～ノビエ4葉期（ただし収穫45日前まで）／1 | |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|--------------------|-----------------------------|--|---|
| 160～240g | | 落水状態で、10 a 当たり 70～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 | 1. MCPAを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 気温の低いときにも使用できる。 3. その他は2. 4-Dに準ずる。 |
| 3kg | 砂壤土～埴土 | 落水またはごく浅く湛水 した状態で、手まきまた は散粒機等で均一に散布 する。 | 1. ペネキスラム、ペンダゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホルイ・ミスガヤリ 5葉期、ウリカ 4葉期、ヒルシロ生育期までに使用する。 3. 浅水状態での効果が安定するのでできるだけ浅水状態（湛水深約1～2 cm）で散布し、少なくとも散布後2日間は水の移動は行わない。 4. 散布後3～7日間は2～5 cmの湛水を保ち、落水はしない。 5. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 |
| 50～100ml | 砂壤土～埴土 | 落水またはごく浅く湛水 した状態で、10 a 当たり 100リットルの水に溶き、噴霧 機等で散布する。 | 1. ビスピリバクナトリウム塩を含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 姉社の茎が硬くなる（木化）以前に散布する。 3. 散布後3日間は水の移動は行わない。 4. 散布後6時間以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 幼穂形成期～乳熟期の水稻には出穂、粃の品質に影響するおそれがあるので使用しない。 6. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. シロホップアチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. キュウスメンヒエでは、水深5 cm（展開葉が水面に接する条件）で使用する。 3. アセガヤ草丈20cmまでに使用する。 4. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 5. 散布後3～4日間は湛水状態（3～5 cm）を保つ。 |
| 1. 5kg | | | |
| 小包装20個 (1 kg) | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり20個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. シロホップアチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 5 cm程度の水深（展開葉が水面に接する条件）で使用する。 3. 散布後3～4日間は湛水状態（3～5 cm）を保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 小包装30個 (1. 5kg) | | | |
| 100ml | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水または落水状態で、 10 a 当たり25～100リット ルの水に溶き、噴霧機等で 散布する。 | 1. シロホップアチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. キュウスメンヒエでは再生茎3～6葉で使用し、畦畔から侵入したものはほふく茎1 m 以内の株全体に株元まで散布する。 3. アセガヤ草丈60cmまでに使用する。 4. 使用の際は展着剤を加用する。（農業用展着剤の項を参照。） |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. ビリミバクメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 散布後3～4日間は湛水状態（3～5 cm）を保つ。 3. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 250g | 砂壤土～埴土 (減水深2 cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. ビリミバクメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 3. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 |

水稻

| 作物 | 農薬名 | 特性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|--------------------------|--|---|--|--------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| エ 乾田播栽培 (ア) 入水前処理剤 | クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生イネ科雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで) / 2 |
| | サターン乳剤 ベンチオカーブ 50.0% | 非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤で非選択性であるが、イネ<ノビエ・メヒシバに属間選択性が認められる。 | 水田一年生雑草及びマツバ | 土壌処理 (乾田・落水状態で全面土壌散布) | 播種直後～稲出芽前(入水15日前まで) / 1 | 同左 |
| | サターンバアロ乳剤 プロメトリン 5.0% ベンチオカーブ 50.0% | 非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ | 土壌処理 (乾田・落水状態で全面土壌散布) | 播種直後～稲出芽前(ノビエ1葉期まで) / 1 | 同左 |
| | クリンチャーバスメ液剤 シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | ウリカワ、ミズガヤツリ | 茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布) | 播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 |
| (イ) 入水後処理剤 | クリンチャーバスメ液剤 シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ | 茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布) | 播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 |
| | クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生イネ科雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散布) | 播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで) / 2 |
| | ザークD1キログラム剤51 ダイムロン 4.5% ペンシルフロンメチル 0.51% メフェナセット 10.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ミズガヤツリ | 土壌処理 (湛水散布) | 入水後5日～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで) / 1 | 稲1葉期～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで) / 1 |
| オ 湛水直播栽培 | キックバイ1キログラム剤 イマゾスルフロン 0.90% エトベンザニド 15.0% ダイムロン 15.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(セリ)、(ヒルムシロ) | 土壌処理 (湛水散布) | 播種後7日～ノビエ2葉期(ただし収穫90日前まで) / 1 | 播種後5日～ノビエ2葉期(ただし収穫90日前まで) / 1 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|------------------|--|--|--|
| 100ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 10 a 当たり25～100リットル の水に溶き、噴霧機等で 雑草茎葉散布する。 | 1. シハホップアザルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。) |
| 600～1200ml | 砂壤土～埴土 | 乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水 に溶き、噴霧器等で散布 する。 | 1. ベンチカーブを含む農薬の総使用回数は2回以内(ただし、入水前は1回以内、入水 後は1回以内)とする。 2. 土壌が乾燥している時は散布水量を多めにするか、適度の湿り気をもたせて散布 する。 3. 除草効果の高い使用時期は雑草発生初期までで、それ以降は効果が劣る。 4. 稲の出芽期には葉害が出やすいので使用を避ける。 5. タテ、タツガハナ、ミノスマなど広葉雑草優占圃場では使用を避ける。 6. 稲の根が露出していると葉害の恐れがあるので注意する。 |
| 600～800ml | 壤土～埴土 | 乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水 に溶き、噴霧器等で散布 する。 | 1. プロトリン、ベンチカーブを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内(ただ し、入水前は1回以内、入水後は1回以内)とする。 2. 稲の出芽時は葉害が生じやすいので必ず出芽前に散布する。 3. 土壌が乾燥している時は散布水量を多めにするか、適度の湿り気をもたせて散布 する。 4. 稲の根が露出していると葉害のおそれがあるので注意する。 |
| 1000ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水 に溶き、噴霧機等で雑草 茎葉散布する。 | 1. シハホップアザル、ベンチカーブを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とす る。 2. 高温では葉害を生じやすいので、多めの希釈水量とし、なるべく水稻にかからない ように散布する。 3. 雑草発生盛期～増殖中期までに使用する。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく 見きわめてから散布する。 5. 散布後3日間は入水しない。 6. 展着剤は使用しない。 |
| 1000ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に 溶き、噴霧機等で雑草茎 葉散布する。 | 1. シハホップアザル、ベンチカーブを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2. 高温では葉害を生じやすいので多めの希釈水量とし、なるべく水稻にかからない ように散布する。 3. 雑草発生盛期～増殖中期までに使用する。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく 見きわめてから散布する。 5. 散布後3日間は水の移動を行わない。 6. 展着剤は使用しない。 |
| 100ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 10 a 当たり25～100リットル の水に溶き、噴霧機等で 雑草茎葉散布する。 | 1. シハホップアザルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。) |
| 1 kg | 壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. ダイムロン、ベンスルフロキサリル、メフェサットを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散 布は1回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2. ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1 kg | 壤土～埴土 早期： (減水深1cm /日以下) 普通期： (減水深2cm /日以下) | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. イマズスルフロ、エトベンザニド、ダイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、 2回以内とする。 2. 雑草発生盛期～増殖中期までに使用する。 3. 散布後3～4日は水深3～5cmに保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。5. 1キロ粒剤の散布上の 注意事項を参照。 |

水稻

| 作物 | 農 薬 名 | 特 性 | 対象雑草名 | 処理法 | 使用時期／回数 | |
|---------------------------------|---|---|---|------------------------------|---|----------------------------------|
| | | | | | 本県の使用基準 | 農薬使用基準 |
| オ 湛 水 直 播 栽 培 | クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生イネ科雑草 | 茎葉処理 (雑草茎葉散) | 播種後10日～ノビエ4葉期まで(ただし収穫30日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期まで(ただし収穫30日前まで) / 2 |
| | クリンチャーバスME液剤 シハロホップブチル 3.0% ペンタゾンナトリウム塩 20.0% | 非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ | 茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布) | 播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 | 播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで) / 2 |
| | ザーベックスDX1キロ粒剤 シハロホップブチル 1.5% シメトリン 4.5% ペンプレセート 6.0% MCPBエチル 2.4% | 非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(藻類)、(表層はく離) | 土壌処理 (湛水散布) | 稲5葉期～ノビエ3.5葉期(ただし収穫60日前まで)(播種後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用) / 1 | 同左 |
| | クリンチャーバスME液剤 バサグラン液剤 ペンタゾンナトリウム塩 40.0% | 非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。 | 水田一年生雑草(イネ科を除く)及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ | 茎葉兼土壌処理 (落水またはごく浅く湛水して散布) | 播種後35～50日(ただし収穫50日前まで) / 2 | 同左 |
| | ミスターホームランド Lジャンボ オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 7.0% ダイムロン 9.0% ペンスルフロンメチル 1.02% | 非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(セリ) | 土壌処理 (湛水散布) | 稲1葉期～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで) / 1 | 同左 |

| 10 a 当たり 使用薬量 | 本県での 適用土壌 | 散布方法 | 使用上の注意事項 |
|---------------------|------------------------------|--|--|
| 100ml | 砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下) | 10 a 当たり25～100リットル の水に溶き、噴霧機等で 雑草茎葉散布する。 | 1. シホホップアザルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。) |
| 1000ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に 溶き、噴霧機等で雑草茎 | 1. シホホップアザル、ベンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2. 高温では薬害を生じやすいので多めの希釈水量とし、なるべく水稻にかからないように散布する。 3. 雑草発生盛期～増殖中期までに使用する。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後3日間は水の移動を行わない。 6. 展着剤は使用しない。 |
| 1 kg | 砂壤土～埴土 | 湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。 | 1. シホホップアザル、シメリン、ベンフルレート、MC P B エチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回、2回、2回以内とする。 2. 雑草・刈草3葉期、ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 播種後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する。 4. 散布後の異常高温が予想される場合は使用しない。 5. 処理時の平均気温が15～16℃以下の場合には使用しない。 6. 1キログラム剤の散布上の注意事項を参照。 |
| 1000ml 500～700ml | 砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm/日以下) | 乾田・落水状態で、10 a 落水またはごく浅く湛水 した状態で、10 a 当たり 70～100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 | 1. ベンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. クロゲライは2回以内、その他の雑草は1回の使用とする。 3. 落水して、雑草に十分かかるよう散布する。散布後3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 雑草・刈草・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モトガサ発生盛期～発生前期、クロゲライ草丈15cm以下までに使用する。 6. クロゲライ多発田では、クロゲライに有効な前処理剤との体系処理をする。 7. 高温時、重複散布では薬害を生じやすいので注意する。 8. 展着剤の加用は必要ない。 |
| 小包装10個 (500 g) | 砂壤土～埴土 | 湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10 a 当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。 | 1. オキサジクロホス、クロメプロップ、ダイロン、ペンソルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. 雑草・刈草・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日は水深3～5cmに保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 5. 稲の根が露出していると薬害のおそれがあるので注意する。 |